

おのきた

尾北校長室から


第19号



「イノベーション 2021」 ~ 脱自己中心

明けましておめでとうございます。皆さんのお正月はどうでしたか？ 入試を控えた3年生はそれどころではなかったかと思います。いずれにせよ新しい令和3年、私たちも新たに動き出しましょう。年末は冬至にちなんで、0学期、4月からの新しい自分に向けて準備を始めようという話をしました。今回は、その0学期を始める皆さんを後押しする話で、キーワードは「**自ら問う**」です。

早速、短い話をします。

ある訓練艦隊の戦艦が、断片的に霧がかかる視界の悪い天候の中で航海していた。暗くなってきた時、進路上に光が見えた。そこで艦長は指示を出した。「このままでは衝突の危険がある。信号を出せ。20度進路を変更せよと。」
相手から点滅する光の信号が返ってきた。「そちらの方が20度進路を変えてください。」艦長が、再び命令した。「私は艦長だ。20度変えるように。」すると、「こちらは二等兵です。そちらの方こそ進路を変えてください。」と返事が返ってきた。艦長は怒り出し、「信号を送れ。こちらは戦艦だ。20度進路を変えさせろ。」と叫んだ。その後、再び信号が返ってきた。それを見て艦長は、すぐに自分の船の進路を変えた。

艦長の考えを即座に変えさせた返事は何だったと思いますか？ それは「こちらは灯台です。」というものでした。艦長は、相手の二等兵が指示を受け付けなかった段階で、「どうしてだろう？」と考えてみる必要がありました。しかしながら、「向こうは船、しかも二等兵」と思った艦長は、途中で考え方を変えることができず、衝突寸前の危機を招いたのでした。

話は変わりますが、皆さんはタイ焼きを食べたことがあると思います。たぶん今、思い浮かべているタイ焼きは、頭が左側にある姿ではないですか？ どうしてみんな同じ姿を思い浮かべるのでしょうか？ 魚料理は頭を左にして出されるので、そのイメージがあるからかもしれません。このことから分かるように、私たちは**無意識のまま経験や習慣に従って発想**をしています。

ここで、もう一つ問題を出します。「正方形に並ぶ9点の全てを通るように4本の一筆書きの直線を引け」です。この問題は、正方形の枠を出るとい
● ● ●
● ● ●
● ● ●
う発想をしない限り解けません。しかし皆さんの中に、正方形の外枠に沿って解こうとしていた人はいませんか？ そんなことは条件にはありませんが、勝手にそう思っている自分がいたはずで

このように私たちは、自分の行動は自分で判断していると思っていますが、実はその90%以上は無意識によるものとされています。この事実を知り、**意識して新たな考え方をしていく**ことが大切です。では、意識的に新たな考え方をしていくにはどうすればよいか？ それは、目の前の「それ」をそのまま受け止めるのではなく、なぜなのか？ 本当にそうなのか？ 他に方法はないかか？ など**自ら「問うてみる**ようにすることです。その自ら問う姿勢は、「**考える力の素**」となり、入試の問題や日々の生活の様々な課題を解決する力として皆さんを後押ししてくれるものになります。

終わりに、艦長のような失敗をしないためには、自分だけでなく、また現在だけでなく、相手のことや先のことに思いを巡らせる姿勢が大切です。また、日々の授業では**疑問を意識的に創り出し**、それまでの自分の考えを膨らませていく姿勢を心掛けてください。新しい一年、この「考える力の素」をしっかりと貯めながら、**昨日の自分の枠を超えていく努力**を続けてもらいたいと思います。